

---

# 俺とあいつと星と虹

amanojyaku

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺とあいつと星と虹

### 【Nコード】

N6372C

### 【作者名】

amanojyaku

### 【あらすじ】

滅多にならない俺の携帯が騒いだ日に起こった出来事。

日曜日。学校もバイトもデートの約束もない日曜日。

俺はベッドに寝転びながら、床に落ちていた雑誌を無造作にめくる。時計はとつくに12時を過ぎている。

ブーブーブー

メールがきた。

あいつからだ。

しかも添付画像あり、だと。

なんだ、なんだ。

俺は内心ドキドキしながらメールを開けてみる。

本文には何も書かれていない。

そこに出てきたものは、見事な虹だった。

・・・うわぁきれいじゃん。

大きくて、くつきりした虹だった。

あいつはまだ覚えてたんだな。

俺が毎日空の写真を撮ってたこと。

あいつと離れてから、俺は写真を撮るのをやめた。

わざわざこんなメール送ってくるなんて、あいつ、どうかしたんだろうか。

明日にでも雨が降るかもしれないな。

そんなことを考えながら、俺はもう一度レンズを覗きなくなった。

あ。

虹が出てる。

・・・。

急いでベランダに出ると、そこにはあいつが見ていたものと同じも

のが広がっていた。

その日の夜、また携帯がなかった。  
今日けよく携帯がなるな。

俺の携帯は滅多にならない。なぜなら特定の人にしか教えてないからだ。

受信BOXを開くと、高校時代の唯一の友人、達也からだった。  
あいつといい、達也といい、今日はなんだか変じゃないか。  
俺は急に胸の辺りがざわざわし始めたのを感じた。

「あいつ、今日死んだらしい」  
俺の視界は真っ暗になった。  
ゴト。

携帯が落ちる。

俺はもう一度ベランダに出た。  
そこには真っ暗な空だけが広がっていた。  
星ひとつない、真っ暗な空。

ああ、あいつ星になれなかったんだな。

あいつの葬式は大雨の中行われた。  
そして俺は奇妙な話を聞いた。

あいつはあの日の早朝、ビルから飛び降りたそうだ。  
しかし、俺にメールが来たのは確か昼を過ぎていた。

ああ、あいつ虹になったんだな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6372c/>

---

俺とあいつと星と虹

2010年11月8日08時43分発行